

同所的環境下における食性の違いがメゾウェア解析に与えた影響 Effects of dietary difference in sympatric environment on mesowear analysis

山田 英佑^{1*}, 仲谷 英夫¹

YAMADA, Eisuke^{1*}, NAKAYA, Hideo¹

¹ 鹿児島大・院・理工

¹Dept. Earth & Environ. Sci., Kagoshima U

メゾウェア解析は、臼歯咬頭の摩滅形態が各食性類型に応じて異なる点に注目して食性を復元する方法の1つである。これまで、化石有蹄類の古食性復元は多数報告されている。しかし、食性の違う動物のメゾウェアが、同所的環境下において、どのような影響を受けるかを詳細に研究したものは少ない。このことは、同一地域層準から産出した異なる分類群に本手法を適用する際に問題となる。本研究は、メゾウェア解析法の検出力評価を目的とした。

まず種内比較のため、宮城県金華山島に生息するニホンジカ (*Cervus nippon*) 個体群を雌雄別に調査した結果、メゾウェアのデータ傾向に有意差が検出された (Fisher's exact test (FET): $P < 0.05$)。また、階層的クラスター解析 (HCA) の結果、雌集団は混合食動物と、また雄集団はグレイザー食動物と、それぞれクラスターを形成した。

次に種間比較のため、日光国立公園内に生息するニホンカモシカ (*Capricornis crispus*) およびニホンジカ個体群について、同様の比較解析を行った。その結果、メゾウェアのデータ傾向に有意差が検出され (FET: $P < 0.05$)、HCA によりニホンカモシカはブラウザー食動物と、またニホンジカは混合食動物と、それぞれクラスターを形成した。

生態学的研究の報告は解析結果を支持していることから、メゾウェア解析によって、同所的な生息環境下における食性の違いを高い精度で検出できることがわかった。

キーワード: 古食性, ニホンジカ, ニホンカモシカ, 臼歯, メゾウェア解析

Keywords: paleodiet, *Cervus nippon*, *Capricornis crispus*, teeth, mesowear analysis